

## 【ご自分でそろえていただく工具と材料】

比較的どこでも見つかる工具と材料をいくつかそろえていただく必要があります。もし下記のリストの中で、新しく購入されるものがありましたら買える中で一番上等のものを買われるようにお勧めします。劣悪な道具というのは使いにくく、作業を難しくしてしまうものです。良質の工具というのは使って快適で、きっとこのクラヴィコード組み立てが終わってもずっとお使いになれるでしょう。

### 1. 電気（電動）ドリル

日曜大工の店などで売っているごく普通の電気ドリルで結構です。あまり高いものを買う必要はありません。（前記の、工具は良い物というお勧めの例外です）

ただし、付属品の中にある一番小さなドリルの刃がきちんと締められるチャックのついたものを選ぶように。ドリルに付けて使えるサンダーとドリルを水平に固定できるアタッチメントもあると便利です。固定用のアタッチメントは私もそう

したのですが自作できます（写真）。そのディスクの前に支え台を作り付ければディスクサンダーので



きあがりです。これがあるとモールドイング（縁飾り）の角あわせのために仕上げ削りをするなど、木を細かく調整しながら削ることが楽にできます。

また電気ドリル用のねじ回しアタッチメントもありますね。底板の取り付けのような、繰り返し作業が楽になるでしょう。

### 2. ねじ回し

外箱組み立て、蓋、前蓋の蝶番取り付け等を使用

### 3. 金槌（ハンマー） 600g～800g 程度

（訳注：原文では Claw Hammer とあり、頭の反対側が釘抜きになっているもののことですが、これは特にこだわらなくても良いと思います。一部の作業で釘抜きは必要になります）

### 4. ワイヤカッター（ニッパー）

5. 30cm 曲尺（訳注：大工さんが使う道具。かねじゃく、きょくじゃく 要は直角定規です）90度だけでなく45度等も測れるようになったものがあります。できればそちらを

### 6. 木工用ノミ（鑿）12～13mmのもの

7. 粗目平ヤスリ（棒ヤスリ）15cm～20cm くらいのも

8. センターポンチ（center punch）（訳注：日本では、ふだんに使うものではないのでお持ちでない方が多いと思いますが、穴あけ作業を正確に行うためにぜひご用意ください。）

9. 釘締め（nail set）（訳注：木工が趣味でない方にはなじみがないかもしれませんが、センターポンチとよく似ていますが、先端が平らになっていてせまいところに釘を打ち込む場合などに使います。工具店や日曜大工のお店で聞けばわかるかと思いますが）

### 10. 突き錐（awl 千枚通し）

11. 木口用鉋（カンナ） 普通の工具売場にあるものは残念ながらあまり良くないものが多い。そういうもので間に合わせることもできませんが、もっと良いものが欲しければ Fine Woodworking などの専門誌のカatalog ページを探すといいでしょう。（訳注：アメリカの木工専門誌のようです。日本で同種の雑誌があるかどうか、寡聞にして知りません）

12. 砥石（粗砥と仕上砥の2種） ノミとカンナの刃を研ぐため。上記のようなカatalog で探すといいでしょう。油砥石でも水砥石でも大差はありません。油砥石では片面が粗砥で、反対側が仕上砥になっているものもあります。小さなものでもなんとかなりませんが、5cm×20cm 程度のものが具合がよろしい

13. 砥石用補助具 ノミやカンナの刃を固定して、常に一定の角度で砥げるようにする補助具です。必須ではありませんが、砥石を使い慣れていない方には安心です

14. 鋸（ノコギリ） 木工用の細かい目のもの。

モールディングのカットに使います

**15. クランプ(締め具)** 5cm と 10cm くらいのクランプを数個ずつ。大は小をかねます。クランプが多すぎて困ることはありません(訳注:新しく買われるなら少し大きめのものを)

**16. 紙ヤスリ** ケース(外箱)用に 110 番と 220 番を各 2 ~ 3 枚と、鍵盤用に 350 番と 500 番(または 600 番)を各 2 ~ 3 枚

**17. 紙ヤスリ用木のブロック** 紙ヤスリの四分の一の大きさ(約 6 x 14 cm)で厚みは 2.5 ~ 5 cm 程度の木片。片面にフェルトを接着剤で貼り付けて、平らな面に平均して圧力をかけられるようにしてください。(訳注:コルクを貼り付けたものを売っているのを見ました)

**18. カーボンペーパー数枚** (手に入るなら)

**19. 変性アルコール** シェラックシンナー。エタノール等。シェラック片を溶かすのに使います

**20. 塗料** 外装ケース用にお好みの塗料(オイルフィニッシュが一般的ですね) 鍵盤の表面仕上げにヴァラサン(訳注: Varathane はアメリカの塗料メーカーです。ヴァラサン社のものは一般のお店では扱っていないでしょうから、類似の塗料をお使いください。著者に問い合わせたところ、外装に使うオイルフィニッシュなどをそのまま使ってもかまわないとのコメントでしたが、鍵盤部は違う色になど製作者のお好みで選んでください)

**21. マスキングテープ** 2 cm 幅くらいのもの

**22. ハサミ**

**23. ドリルの刃** 2.3 mm と 3.5 mm くらいのもの

**24. 8 番の皿取ドリル刃**(カウンターシンク。前書き参照)または 2.3mm、8.6mm、4.3mm と皿取ドリルの組み合わせでも結構です

**25. 巻尺**

**26. 物干しヒモ**(訳注: ケースを組み立てるときに外周をぐるっとしばって締め付けるために使います。キットには一応紐は同梱されています。ありあわせのもので結構ですが、なるべ

くすべりのよいものが締め込み易いかと思います)

#### 【キット部品写真】

